

さあ2学期が始まるよ!!

～教職員メッセージ～

「希少性」



校長 藤永直也



最近、インターネットによる買物が増えたそう
だ。人件費が抑えられる販売方法は、価格に反映され、
多くの人が利用している。コンピュータの進化によ
り、販売だけでなく経済や社会が変化する。あと10年
から20年たつと今の仕事の約47%が自動化される可能
性が高いという。これから先を生き抜く人たちにとつ
ては、便利な世の中にはなったが裏を返せば職種に変
化が起こる。

ではどのような仕事が重宝がられるかという
と、キーワードは「希少性」だそうである。

「希少性」が高まれば当然その仕事は収入も高くなる。
収入がすべてとは言わないが、技術を高めたその人し
かできない仕事は社会においても必要不可欠となる。

更に突き詰めれば、専門性を磨くことや国際的な視野
を持ったコミュニケーション能力を高めることが「希
少性」に繋がると思う。

その基礎を作るのが学校生活。学力、体力、人間力が
同じ学舎だからこそ学び成長しあえる。実はそのよう
な学びの姿は、どの時代もどの学校にも存在していた。

「日田高定時制」が「希少性」の能力を有した生徒の
育成に向け、将来への輝きをいつまでも放ち続けて欲
しいと思う。

「P E D A G O G U E (ペダゴグ)」



教頭 倉原浩二



この2学期から先生たちが P E D A G O G U E
と書かれた名札を下げています。が、「教師」を意味
するこの言葉には次のような語源があります。「ペ
ダゴグ」は、ギリシャ語の「パイダゴゴス」
(「子どもに連れ添って歩く人」)から生まれた言
葉です。古代アテネの時代、裕福な家庭ではその家
の「奴隷」(パイダゴゴス)が子どもの安全のため
に登下校に付き添い、予習や復習を手伝い、必要な
時に子どもを危険から守ったのです。

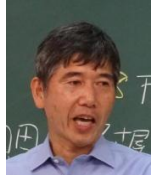
先生たちは、みなさんに学ぶことの真の歓びを伝
えられるだけでなく、日々揺れ動く、思春期特有の
気持ちにもしつかり「寄り添って」いきたいと願っ
ています。月並みな言葉ですが、迷ったり、どうし
ようもなく落ち込む時こそ、「今日一日」をしっか
り生きていきましよう。「あなたが虚しく過ごした
今日という日は、きのう死んでいったものが、あれ
ほど生きたいと願ったあした」(趙昌仁著「カシコ
ギ」より)なのだから。

予測できない未来に怯(おび)えるのではなく、
目の前に広がる道を一步一步、前へ歩き続ける。
そうすることで、目の前にそびえ立っているのは
実は「壁」ではなく、未来へ通じる「扉」だといふこ
とに案外、簡単に気づくかもしれませんよ。

二学期はいよいよ“THIS IS YOUR
LIFE” (NY, Holstee社のマニフェ
スト)を一文一文読んでいきます。この英文を読み
終えた時には、これまでとは違った風景が見えてく
るはず。どうかお楽しみに!

「戦後70年を迎えて」

一年学級担任 小野栄昭



戦後70年の年に思うことは、このまま戦後が80年、100年と続きますようにいうことです。戦争を知らない世代が圧倒的に多くなった日本で、戦争の悲惨さを胸に刻むためには70代以上の方から戦争体験談を聞いたり、戦跡を訪ねたり、記録として残っている本を読んだり、戦争を題材とした映画を観たりしていくしかない。本当に最近そんな努力を何一つしていない私でも今夏はこのままではいけないと感じることがあった。それは旧制中学を卒業して小倉の兵器工場に就職した84歳のお年寄りの話です。1945年8月9日もいつもと同じように働いていて午前中は曇りの日に長崎に原爆が落とされたことは2日後に知り、最初の投下目標地点が小倉であったことはもっと後になって聞かされたそうです。このときは天候が生死を左右したわけですが、これから日本の運命を左右するのはみんなにかかっています。18歳に選挙権が与えられた今、世の中のことを考えるきっかけにしましょう。

「人を一叩き(ひとたたき)」

二年学級担任 清竹久美香



「命」を体で表現して人気のお笑いタレント・ゴルゴ松本の、漢字を使った「魂の授業」と題して、少年院で行う講演の様子をテレビで目にする機会がありました。その中で、命名↓運命↓宿命↓使命↓寿命と生まれて死ぬまで命なんだ。この「命」は「人を一叩き(ひとたたき)」と書く。これは心臓がドクン・ドクン・ドクンと動いている、この一叩きの連続が命なんだと言っていました。(以上、ゴルゴ松本：談)

生きている間、命が尽きるまでずっと止まらず心臓は叩き(動き)続けています。すなわち呼吸をしています。私たちは、生きていく中で健康を最大のテーマとして、食事・運動・休養が重要だと教えられ意識していますが、呼吸は無意識に行っています。実は「呼吸」こそ、生きる上で一番大事なことです。目覚めてからも、呼吸が続くという事は命があり「生かされている」、このことに感謝することが私には大切だと思います。呼吸は、本当に正直です。心が緊張したり、体調が悪ければ、呼吸が速く浅くなります。だからこそ、意識して深呼吸(ゆっくり)・腹式呼吸(丹田：へソの下を使う)など、日頃から呼吸を意識して大切にしてみてはどうでしょうか？みなさんの人生でどれだけの回数、心臓は叩き続けるのでしょうか・・・。命の限り、生かされていることに感謝です。

「学力って何だろう」

一・二年学級副担任 藤原耕一



この夏休み、いろいろな研修会や講演会などに参加する機会があり、その時「人間の能力や学力は何なのか？」と考えさせられることがありました。

勉強ができるというのは確かに大事な一面ではありますが、本当のその人の学力とは、「当たり前前」のことが当たり前前にできる「力」をもつことではないかと思えます。難しいことではありませんね。「当たり前前」のことがちゃんとできるかどうかで、その人の評価は決まる」と私は思います。挨拶ができる、掃除をちゃんとやる、時間や約束を守る、人の話をちゃんと素直に聴く、他人を思いやる、集団(家庭・学校・社会)生活のマナーやルールを守るなどです。

いよいよ2学期が始まります。なにげなく過ごしてしまいがちな生活の中に「当たり前前」のことが当たり前前にできる「力」を考え、それができるように今学期に実践してみてください。私もがんばります。



「便利さと不自由さ」

三年学級担任 阪口文美



猛暑日が続く8月のある日、県外で一人暮らしをしている長男のことが気になり、熱中症になってないかとメールを送った。いつもならその日のうちに「大丈夫」「りよ」など1ワードのメールが返ってくるが、今回は返信どころか「既読」が付かない。電話をしてもつながらず、結局、丸一日何の連絡もなかった。「熱中症で倒れて…いや、もしかしたら殺されているのでは…」と私の妄想(?)は悪い方向へと膨らんでいく。オロオロしている私とは対照的に、夫はいたって冷静に、LINEやケータイ以外で息子の安否確認が出来る方法を考えていた。それから一時間後…。「至急電話されたし」という電報を受け取った長男が、近所のコンビニから公衆電話で無事を伝えてくるといふ結末で、この件は終わった。

スマホやケータイを持っていることが普通になってしまった現在(いま)。「相手とすぐにつながる」ことが当たり前になっている。「すぐにつながるがらなかった」ときの不安が大きくなっている。自分が学生の頃は携帯電話など普及しておらず、そんな中でも普通に過ごしていたのに…。便利なものに慣れてしまいうと、いざそれが使えなくなったときに感じる不自由に驚く。便利さに依存しすぎることなく、常に冷静な気持ちで行動できる人間(ひと)になりたいと思う。

みなさんもスマホやLINEに依存しすぎていませんか。「スマホが無くても平気だ」って言えるくらいの気持ちで、これらの便利なツールと付き合っていきましょう。



「ワーク」

四年学級担任 三浦和子



前半分にしか座席のない教室で、わずか10名にも満たない生徒が毎日授業を受けている。早いもので最終学年の4年生になって3ヶ月が過ぎた。皆にはいつもと変わりない1学期だっただろうか。

これからの数ヶ月は自分の進みたい道を見つけてもらいたい。選択肢はいくつもある。自分がやりたいと思うこと。興味のあること。働いてみたいと思う場所。手がかりは自分の中にあると思う。

私自身、最近仕事について考えることが増えた。幸いなことに、私の周囲には仕事を楽しく取り組んでいるひとが多い。また、ありがたいことにそういった人たちと知り合う機会にも恵まれている。その中で、仕事とは、ただ、生活の糧を得るための手段ではないことに気づかされる。そして、どんなにキャリアを積んでも、学びは終わらないということも。周囲の仕事を楽しんでいるひとは誰も変化を恐れていない。軽やかに次のステップを踏んでいるように見える。

皆はこれからの長い人生、同じ職場で一生涯働くということはほぼないかもしれない。でも、新卒というのはい一度きりなので、なし崩し的に卒業だけを目標にしてほしくない。



夢は違っても、全員がお互いの道をおめどうと言えようように、これからの高校生活を卒業後に向けて一致団結してほしい。

「趣味のマジックを通して考える

生徒へ伝えたいこと」
三・四年学級副担任 水谷昌弘



マジックで私が師と仰いでいるのは二人だが、クロスアップの方の師匠は石川さんという。長く勤めていた博多のマジックバーが閉店したので今は少し退いた形になっている。石川さんの一番弟子はパイロット、二番弟子が私、三番弟子は福岡市内でマジックバーを開いている。三番弟子の松枝さんは豪華列車「ななつ星」の中で働く機会があったのだが、お店の常連のために断った義理固い男である。

マジシャン同士がまず聞くことの一つが誰の弟子かということである。最近、福岡に新しくマジックバーができたのだが、その店長の修行先は、東京の老舗のバーであり、それまで軽口を叩いていた福岡の若手のマジシャンの態度が一変したという。

マジシャンに実際に必要なこととはというと、敬語が使えるかということやお礼状が書けるかなどである。不思議な世界に生きている人たちにとっての大切なことが、非常に常識的なことというのとはとても興味深いと思う。

「人生を100%楽しむ」

5年担任 添田章裕



最近、「20代までにしておきたい17のこと」という本を読んだのですが、その17あるうちの1つにタイトルで挙げた言葉がありました。とても大切なことだと思いますが、難しいことです。人生いつも楽しいことばかりではなく、嫌なこと、辛いことが必ずあります。そんな中でも楽しもうとすることで、自分の力を出すことができ、成功するのもかもしれません。

さあ、2学期が始まります！

2学期には、生活体験発表や体育祭などさまざまな行事があります。面倒くさいとか、つまらないとか思うより先に、まずは楽しむことを考えましょう。そうすれば、きっと楽しくてあっとい間2学期になるはずです。

そして私も、みなさんに負けないくらい2学期を楽しみたいと思います！



「メッセージ探しの旅」

教務主任 中島健吾



1年生の国語の授業で、「メッセージ探しの旅」というエッセーを読んだ。NHKのアナウンサーの加賀美幸子さんが記したものだ。

筆者は文章の最後をこのような言葉で結んでいる。「人生はメッセージ探しの旅のような気がする。学校でも、先生は教室という同じ空間で、同じ言葉、同じ内容の授業をするのだが、生徒たちのメッセージの受け取り方は様々。何かを捉えたり、まったく素通りしたり。何を捉え、何を見逃すか、———そのことがその後の人生にも大きくかわるような気がするし、さらに世の中の様々なメッセージの中から何を感ず、何を捉えるか、その感じ方、捉え方こそ、その人の生き方そのもののような気がするのではない。」

さあ、今日から2学期が始まる。授業や行事、友だちや先輩との交流をとおして、たくさんメッセージに気づき、読み味わってほしいと心から願っている。



「今思うこと」

家庭科 吉岡紀江



自分位の年齢になると“将来の夢、希望”も当然持つべきなのでしょうが、これから先、いかに健康で心穏やかに過ごしていくかを考えるようになります。

8月中旬、小学校時代の同窓会があり出席しました。亡くなっていてる人、病気を患っている人、頭の毛の薄くなっていてる男性(笑)、メタバポになっていてる人・・・数十年前の月日の経過とともに皆それぞれの人を歩んできたんだろなあと思い、昔の面影をたどりつつ懐かしさを抱きながら気持ちを思い出し楽しく過ごしました。皆それぞれ楽しそうにしていましましたが、やはり山あり、谷ありだったと話していました。自分も人には言わずともやはりこの数十年間いろいろあったなあ、と思いつつ健康である今の自分に感謝しました。

さて、皆さんはこれからまだまだ長い人生を歩んでいくわけです。“若さ”というものにはある意味、特権でもありますので、今のこの時期に自分磨きをして、この時期にしか出来ないことにチャレンジして高校园生活を充実させて下さい。

さあ、2学期が始まります。2学期は体育祭、生活体験発表会などいろいろな行事が盛りだくさんですので、友達との交流を深め、勉強に運動に励んで高校生活をエンジョイしてください。皆さんを見ていて“若い”って良いなあ・・・と今つくづく感じています。

「小さく」ぶっ」

芸術科(書道) 長谷川裕美



こんにちは！
・酷暑・の夏も去り、朝夕すっかり秋めいて気分もホッと和らぎます。2015年の夏は、どうでしたか？
私は、篠田桃紅さんという、103歳の美術家の著書「百歳の力」・「103歳になってわかったこと」を読み、とても刺激を受けました。

篠田さんは、墨(すみ)を使って文字で自己表現するのではなく、心に浮かんだ線を造形を筆で描いて作品を発表し、国内外で非常に高い評価を得て、今なお第一線で活躍中方です。そんな篠田さんの言葉には、重みがあり説得力があります。その中から、皆さんに紹介したいのは「生きていく限り、人生は未完成！ 生きていくうちに、やりたいことはどんどんやろうと思う」という言葉です。

私の出来ない言い訳は、いい歳だから・家族のことが・自分には到底無理・面倒だしと・・・臆病になっただけも踏み出せないで、足踏みばかり。

さあ、この二学期は、何かできる小さくこぶしを挙げました。

「幸せになるために
今しかできないことを」

保健体育科 黒瀬舜介



私は高校生や大学生の頃、今しかできないことをしようとの思いで日々の生活を過ごしていました。野球やボランテア、そして友人と遊ぶことなど、楽しいことばかりでした。しかし、今思えばこれらの活動が本当に今しかできないことだったのかと自問することがあります。なぜか。それは幸せになるための行動選択ができていなかったと感じるからです。

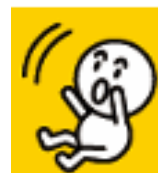
私たち人間は幸せになるために生きています。長い人生を幸せに過ごすために学校に行き、仕事をします。ではその幸せには何が必要か。それは苦勞することだと言われています。若いうちにたくさん苦勞するといつか幸せが訪れるのです。苦勞そのものが不幸なのではと思う人もいるかもしれませんが、しかし、幸せを得るための苦勞は決して不幸なことではないと思います。

私も皆さんもまだ若いのです。若さはエネルギーです。そのエネルギーで幸せになるために今しかできない苦勞を乗り越えていきましよう。

「がんばらない・他力本願・

あきらめる」

養護教諭 奥山恵理



私にこの言葉を教えてくれたのは、定時制の調理員のお二人でした。みなさんは、このフレーズを聞いて、どう思われました？私にとってはとても素敵な言葉で、疲れた時は癒やしになり、落ち込んだ時には励ましにもなるので、しょっちゅうこの言葉を思い出し、実践しようと思つてしまふのです。笑っちゃいます(*^▽^*)

ということ、2学期も「がんばらない、他力本願、あきらめる」を頑張らずに実践したいと思つていきます。



よろしく願ひします。

「2学期に向けて」

事務室 池邊礼人



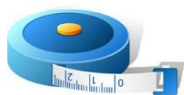
長い夏休みも終わり、皆さんも、心身ともにリフレッシュができたことと思います。

2学期は、体育祭、生活体験発表大会等、大きな行事が控えており、勉強と並行して、その準備等でまた忙しくなることと思います。

私は、9月から、12月までの2学期は、何か1つだけでも目標を持って達成できるように頑張りたいと思います。皆さんも何か1つだけでも良いと思ひますが、目標を持って達成できるように2学期頑張ってくださいと思います。

2学期は先程述べたように大きな行事が続けてありますので、毎日、体調管理に気をつけて、無理をせず、こつこつと少しずつ目標を達成していければいいと思ひます。

2学期もよろしく願ひします。



【耕不尽】



◇今回の学校だよりは、1月の新春メッセージに続いて、「教職員メッセージ」さあ、2学期が始まるよ！」版をお届けします。

◇先生方の個性あふれるメッセージ、みんなの胸にとどくといいなあ。

◇2学期は約80日と長い学期ですが、その分、行事がたくさんあります。(2学期の行事予定は、学校HPにも掲載しています。ぜひご覧ください)

◇始業式の日、早く登校していた1年生の男子に、「2学期が始まったね。行事がたくさんあるから楽しんで。」と声をかけたら、「楽しいだけじゃつまらん新しいことに挑戦してみたい。」と返されてドキッとしました。

◇この生徒に限らず、生徒みんながしっかりとした目標を立てて2学期に臨んでいると思ひます。

◇私たち教職員一同、日々の授業や行事をおして、生徒の皆さんが成長を実感できるよう、「希索性」の育成を目指し、「ペダゴグ」の精神でしっかりと生徒に寄り添っていきたいと思ひます。今学期もどうぞよろしく願ひします。

(中)